

令和 3 年 5 月 24 日現在

機関番号：32678

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2020

課題番号：18K13128

研究課題名（和文）幼児の生活時間に与える保護者の意識と知恵に関する研究

研究課題名（英文）Study on consciousness and wisdom of the parents to give at the life time of the young child

研究代表者

泉 秀生 (Izumi, Shu)

東京都市大学・人間科学部・准教授

研究者番号：40633920

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、東京都の保育園に通う0～6歳児868人の保護者に対して生活習慣の実態に関する調査を実施し、21時以降の遅寝や10時間未満の夜間の短時間睡眠の実態を確認した。

上記結果から「家庭でできる早寝のための工夫」をまとめたリーフレットを作成し、介入研究を行なった結果、介入後の方が、生活時間が規則正しくなったとともに、生活時間を早めようと意識する家庭が多くなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまでの研究では、乳幼児期の子どもたちの生活習慣の結果から、遅寝の子どもたちの増加や短時間睡眠の実態について報告されていたが、それらを改善する手立てについては示されていなかった。

本研究では、介入研究によって「テレビ・動画の消す時刻を早めること」や「夕食後もしくは入浴後のテレビ・動画を見ないこと」等の具体的な方法により、子どもたちの就寝時刻が早まることを実証した点が学術的意義・社会的意義がある。

研究成果の概要（英文）：In this study, we conducted a survey on the lifestyle habits of 868 parents of children aged 0 to 6 years old, who attend a nursery school in Tokyo. And We confirmed the existence of nursery school infants who went to bed late after 21:00 and slept for a short time of less than 10 hours.

Based on the results obtained, we created a leaflet summarizing "ingenuity for early sleep at home" and conducted an intervention study. As a result of this study, the lifestyles of children after the intervention became more regular. At the same time, many households are conscious of shortening their living time.

研究分野：健康福祉

キーワード：生活習慣 幼児 就寝時刻 遅寝 短時間睡眠 生活リズム

### 1. 研究開始当初の背景

これまで、幼稚園や保育園に通う幼児の生活習慣の乱れについての研究や報告は多く、とくに、①夜、10 時程度の遅い就寝時刻、②短い睡眠時間、③朝食の欠食や孤食、④日中の活動量の不足ならびに体力の低下、⑤夜遅くまでテレビやゲーム、動画視聴に興じている等の実態が報告されている。その結果、幼児にもかかわらず、朝から、眠気や疲労感を訴える子ども、注意力・集中力が散漫であったり、すぐに怒ったりする子ども等、日中の活動に集中できていない子どもの存在が確認されている。実際、園に勤務している先生方を対象に行った調査においても、朝から眠そうな子どもや物事に集中できていない子どもの存在が報告され、乱れた生活による、子どもへの不利益が生じている。

とくに、保育園に通う幼児の方が、幼稚園に通う幼児に比べて、生活習慣の乱れが顕著である。両親が共働きであり、かつ、親の終業時刻が遅いため、子どもの降園時刻や帰宅時刻も遅れ、夕食時刻や入浴時刻などの生活時間全般が遅れていることや、乱れた生活リズムのまま日々を過ごしているために、子どもの体のリズムも夜型化し、夜になっても眠くならないこと等が実態としてあげられる。

これまでの研究では、生活習慣の乱れている子どもの生活改善のために、日中、園における運動量を増やすことで、夜間に眠りを誘う疲労感を得させたり、生活時間の調査結果を用いて、生活習慣の乱れた実態やその課題について保護者に伝えたり等、幼児の生活を規則正しくしようと試行錯誤が続いている。しかし、幼児の生活習慣は、20 年以上も乱れたまま改善されず、遅寝・短時間睡眠の乱れた生活をおくる子どもの報告は後を絶たない。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、①健康的な睡眠習慣を獲得している保育園児の生活時間を抽出し、推奨モデルを創ること、また、②規則正しい生活をおくる子どもの家庭で実践している生活上の工夫や知恵をまとめること、さらに、③それらの有効性について検討を加え、④得られた知見を普及することである。

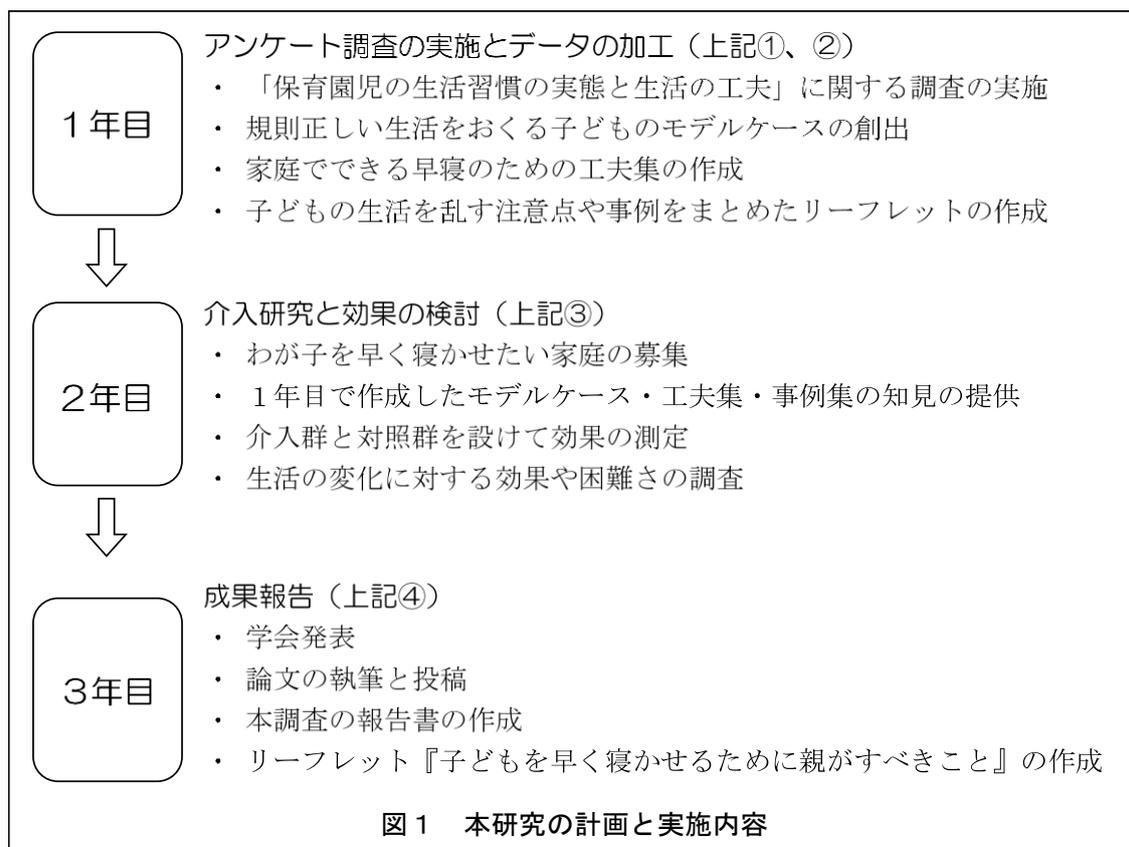
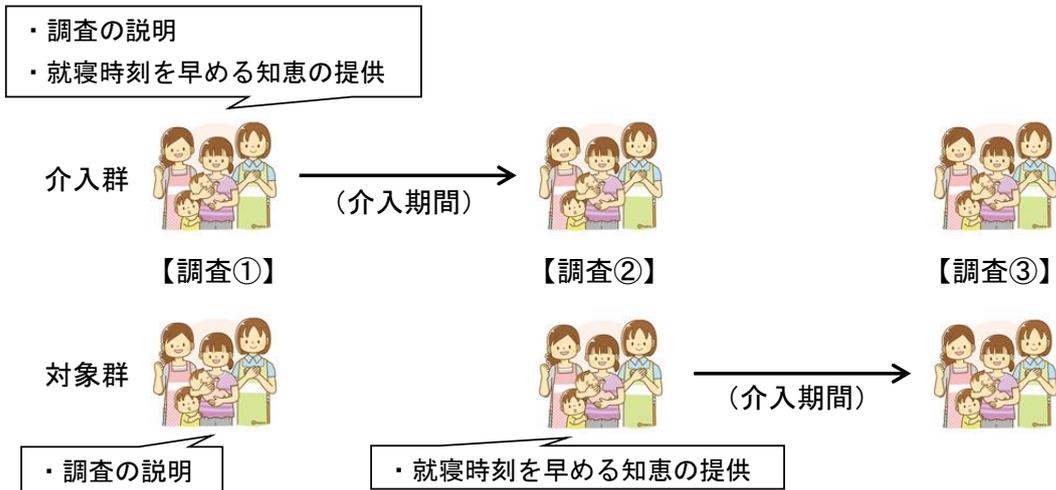


図1 本研究の計画と実施内容

### 3. 研究の方法

本研究では、幼児の就寝時刻を早めるための1つの策として、仮説「保護者に幼児期の子どもの規則正しい生活に関する理論的で正しい知識と実践方法を提供すれば、子どもの生活は改善する」が実証されることを目指している。また、その一方で、本仮説が実証できない状況があった場合は、その理由についても調べ、近年の子育て家庭の生活が不規則になる、その困難さについても調査し、今後の研究すべき内容として考えていきたい。



調査① 介入群と対象群それぞれの子どもの普段の生活時間を調査

調査② 介入群の効果測定、対象群では変化のないことを確認するために生活時間を調査

調査③ 介入群では効果の継続性、対象群では再現性の確認のために生活時間を調査

#### 4. 研究成果

##### (1) 保育園幼児の母親の勤務先における子育て支援制度の利用状況と生活時間

2017年7月に、東京都足立区の保育園13園に通う0～6歳児868人（男児438人，女児430人）の母親868人（平均36歳±5.0歳）に対し、母親の勤務先の子育て支援制度の利用状況ならびに幼児と保護者の生活習慣に関するアンケート調査を実施した。

その結果、母親の勤務先の子育て支援制度について、「利用している」群は868人中403人(46.4%)おり、「利用していない」群は465人(53.6%)であった。利用者の人数割合を子どもの年齢別にみると、0歳児の母親で66.7%、1歳児で58.6%、2歳児で57.7%、3歳児で50.0%、4歳児で37.5%、5歳児で

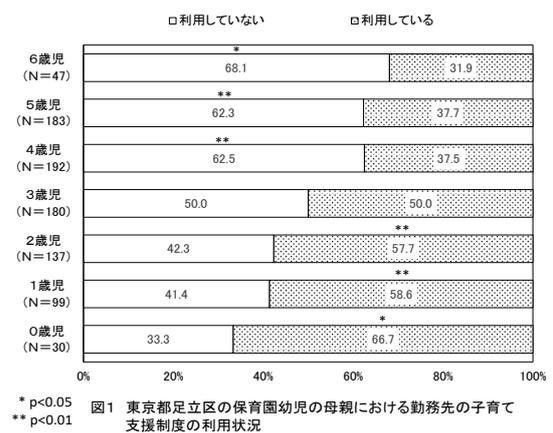


表1 東京都足立区保育園幼児の母親が使用している勤務先の子育て支援制度

(%)

対象	順位	1位	2位	3位以降	その他の内容
0歳児 (N=20)		短時間勤務(100)	フレックスタイム(15.0)	在宅勤務・その他(10.0ずつ)	・週4日勤務 ・子連れ勤務
1歳児 (N=55)		短時間勤務(98.2)	フレックスタイム(12.7)	在宅勤務(5.5)  その他(3.6)	・看病休暇 ・キッズ休暇
2歳児 (N=79)		短時間勤務(91.1)	フレックスタイム(13.9)	在宅勤務・その他(7.6ずつ)	・時間外勤務免除 ・自由が利く ・看病休暇 ・出産休暇 ・半休制度
3歳児 (N=90)		短時間勤務(83.3)	フレックスタイム(20.0)	在宅勤務(6.7)  その他(5.6)	・育児休暇 ・出産休暇 ・院内保育
4歳児 (N=72)		短時間勤務(86.1)	フレックスタイム(16.7)	在宅勤務(4.2)  その他(8.3)	・業務委託 ・育児休暇 ・看病休暇 ・昼休み短縮 ・両立支援休暇 ・院内保育
5歳児 (N=69)		短時間勤務(81.2)	フレックスタイム(14.5)	在宅勤務(13.0)  その他(5.8)	・看病休暇 ・時間契約
6歳児 (N=15)		短時間勤務(86.7)	フレックスタイム(13.3)	在宅勤務(6.7)  その他(13.3)	・自営業 ・育児休暇

37.7%、6歳児で31.9%であり、とくに、0歳児～2歳児を育てる母親の割合が有意に多いことを確認した ( $p<0.05\sim 0.01$ )。また、母親が利用している子育て支援制度の内容としては、子どもの年齢を問わず、「短時間勤務」が8割以上と最も多く、次いで、「フレックスタイム」、「在宅勤務」と続いた。

勤務先の子育て支援制度を利用している割合が3歳未満児の母親で多かったことは、育児・介護休業制度の利用対象年齢が3歳未満の子どもを育てる保護者であるためと推察した。一方、4歳～6歳児の母親では、3割程度が利用していたことから、4歳以上を育てる母親の子育て支援制度を用意している企業の少ないことや用意してあっても利用できていない現状がうかがえた。子どもたちの生活時間の結果をみると、母親の勤務先の子育て支援制度の利用状況によって、その子どもたちの生活時間に有意な差は認められなかった。一方で、1歳児と2歳児の母親では、制度を利用している母親の方が、帰宅時刻が有意に早かったことから、子育て支援制度によって早い時刻に帰宅できてはいるものの、子どもたちの健康的な生活づくりには結びついていないことが示唆された。今後、企業は、子育て中の社員に対して提供する子育て支援策を用意することはもちろんのこと、その子どもたちの健康的な生活時間を念頭に置いた内容の整備や、それらの利用を促す企業の風土を整えることが求められるであろう。

表2 東京都足立区の保育園幼児の母親による勤務先の子育て支援制度利用の有無別にみた幼児とその保護者の生活時間

対象・項目	制度利用の有無		1歳児・2歳児				3歳児～6歳児							
			利用していない群 (N=99)		利用している群 (N=137)		利用していない群 (N=356)		利用している群 (N=246)		全体平均 (N=602)			
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差		
幼 児	就寝時刻	21時15分	41分	21時10分	38分	21時12分	39分	21時34分	36分	21時35分	32分	21時35分	34分	
	睡眠時間	9時間20分	36分	9時間25分	36分	9時間23分	36分	9時間14分	34分	9時間12分	32分	9時間13分	33分	
	起床時刻	6時36分	30分	6時35分	29分	6時35分	29分	6時49分	48分	6時48分	29分	6時48分	29分	
	朝食時刻	7時05分	27分	6時58分 *	27分	7時01分	27分	7時12分	27分	7時10分	28分	7時11分	27分	
	家を出る時刻	8時01分	27分	7時55分	28分	7時57分	27分	8時05分	27分	8時03分	29分	8時04分	28分	
	迎え時刻	17時47分	47分	17時36分	40分	17時41分	43分	17時37分	53分	17時35分	51分	17時36分	52分	
	帰宅時刻	18時10分	45分	17時59分	39分	18時04分	42分	18時00分	54分	17時59分	49分	18時00分	52分	
	TV視聴時間	49分	39分	56分	39分	53分	39分	1時間15分	45分	1時間19分	52分	1時間17分	48分	
	モバイル使用時間	40分	44分	29分	36分	34分	39分	45分	41分	42分	42分	44分	42分	
	夕食時刻	18時57分	35分	18時52分	32分	18時54分	33分	19時04分	36分	19時00分	33分	19時02分	34分	
	入浴時刻	19時39分	55分	19時30分	49分	19時34分	52分	19時44分	58分	19時44分	57分	19時44分	58分	
	母 親	就寝時刻	22時54分	67分	22時51分	73分	22時52分	70分	22時52分	68分	22時43分	69分	22時48分	68分
		睡眠時間	7時間06分	64分	7時間01分	69分	7時間03分	67分	7時間07分	71分	7時間18分	66分	7時間11分	69分
起床時刻		6時01分	41分	5時53分	42分	5時57分	42分	6時00分	40分	6時02分	42分	6時01分	41分	
朝食時刻		7時02分	40分	6時53分	41分	6時56分	41分	7時04分	41分	7時03分	37分	7時03分	39分	
家を出る時刻		8時01分	37分	7時50分 *	29分	7時55分	33分	8時04分	41分	7時57分 *	34分	8時01分	38分	
通勤時間		35分	19分	56分 ***	20分	48分	22分	33分	22分	51分 ***	21分	40分	23分	
始業時刻		8時54分	34分	9時10分 ***	31分	9時03分	33分	8時59分	33分	9時08分 **	29分	9時02分	32分	
終業時刻		17時08分	45分	16時33分 ***	36分	16時48分	44分	17時02分	55分	16時48分 **	45分	16時57分	52分	
就労時間		8時間14分	62分	7時間23分 ***	48分	7時間44分	60分	8時間03分	68分	7時間40分 ***	56分	7時間54分	64分	
帰宅時刻		18時11分	46分	17時51分 **	41分	17時59分	44分	18時05分	47分	18時01分	51分	18時03分	56分	
TV視聴時間		1時間11分	66分	1時間28分	75分	1時間21分	72分	1時間15分	60分	1時間17分	80分	1時間16分	71分	
夕食時刻		19時15分	50分	19時14分	54分	19時15分	52分	19時09分	40分	19時06分	38分	19時08分	39分	
入浴時刻		19時46分	139分	19時37分	125分	19時41分	131分	19時53分	99分	19時45分	115分	19時50分	106分	
父 親	就寝時刻	23時19分	92分	23時37分	75分	23時30分	83分	23時28分	122分	23時38分	83分	23時33分	107分	
	睡眠時間	6時間57分	69分	6時間44分	63分	6時間49分	65分	6時間42分	68分	6時間49分	64分	6時間45分	66分	
	起床時刻	6時33分	122分	6時20分	58分	6時25分	89分	6時27分	88分	6時35分	71分	6時31分	81分	
	朝食時刻	7時03分	41分	6時56分	55分	6時58分	49分	7時06分	68分	7時05分	52分	7時06分	61分	
	家を出る時刻	7時32分	123分	7時29分	74分	7時30分	96分	7時29分	102分	7時38分	80分	7時33分	93分	
	通勤時間	50分	27分	54分	25分	53分	26分	50分	28分	56分 **	22分	52分	26分	
	始業時刻	8時46分	123分	8時51分	68分	8時49分	93分	8時42分	107分	8時59分	78分	8時49分	96分	
	終業時刻	17時57分	140分	18時40分 *	108分	18時23分	123分	18時32分	139分	18時32分	117分	18時32分	130分	
	就労時間	10時間07分	168分	10時間00分	124分	10時間03分	143分	10時間12分	140分	9時間47分 *	119分	10時間01分	128分	
	帰宅時刻	20時02分	145分	20時44分 *	106分	20時27分	125分	20時12分	158分	20時47分 **	119分	20時27分	143分	
	TV視聴時間	1時間12分	57分	1時間23分	62分	1時間18分	60分	1時間24分	59分	1時間12分 *	53分	1時間18分	57分	
	夕食時刻	20時27分	89分	21時01分 *	97分	20時47分	95分	20時35分	101分	20時56分 *	92分	20時44分	98分	
	入浴時刻	20時07分	249分	20時19分	268分	20時14分	260分	20時12分	258分	20時12分	272分	20時12分	264分	

子育て支援制度を「利用していない」群の平均値との差: \*  $p<0.05$ , \*\*  $p<0.01$ , \*\*\*  $p<0.001$

## (2) 乳幼児を育てる家庭への介入研究

乳幼児を育てている保護者に、規則正しい生活に関する理論的に正しい知識と実践する方法を伝え、その前後における生活時間の変化を調べました。2019年11月～12月にかけて、乳幼児を育てる16世帯を対象に、「規則正しい生活に関する知識と知恵」に関する講座を開き、その前後における子どもの生活時間を調査した。

講座は東京未来大学で実施し、各家庭に対して20分程度の講座を行った。規則正しい生活習慣に関する理論的な知識と、それらを実践するための知恵を紙面にまとめて配布し、伝えた。この資料は、各家庭のお子さまに合った生活時間を設定してもらえるように、子どものニックネームと目指す時間を記載できるようにし、家の中の壁に貼っていただくように依頼した。

調査の方法は、google フォームを用いたアンケート調査であり、介入前に普段の生活の様子を答えるとともに、講座を受けた1週間後の生活の様子を聞いた。講座前後における生活時間を調べた結果、介入後の方が、起床時刻、朝食時刻、登園時刻、寝室への移動時刻、親の設定したわが子の就寝時刻が早くなり、就寝時刻が30分程度早くなった(表2)。

また、わが子の早寝を促すために取り組んだ内容をみると、「親が子どもの就寝時刻を意識した(87.5%)」が最も多く、次いで、「親もいっしょに寝るようにした(81.3%)」、「子どもに就寝時刻を意識させた」、「入眠儀式を行うようにした(75.0%ずつ)となった(図2)。子どもの生活時間を設定して、親が考えながら生活するとともに、子ども自身に意識をさせることの有効性もうかがえた。

続いて、テレビや動画を見る時間帯や視聴する前にすべき準備や行動をしておく“ルール”を設けることで、早寝を促す家庭も 65.0%前後いた。これらの結果から、ただ単に生活時間を早めることはもちろんのこと、それらの意思を阻害するテレビや動画との関わり方を工夫することの必要性が実態として把握された。

さらに、介入を通して、子どもと保護者の生活や暮らしの変化を聞いたところ、子どもの様子においては、「早く起床できるようになった」、「朝の機嫌が良くなった」等、朝からの心地よいスタートに繋がっていることがわかった。

このような結果は保護者についてもみられ、子どもと同様に「早く起床できるようになった」、「朝の機嫌が良くなった」等、朝からの心地よいスタートに繋がった(表4)。

生活は各生活時間が数珠つなぎ式に連なっているため、就寝時刻が早くなれば起床時刻も早くなり、十分な睡眠をとれているので、朝の機嫌のよさやゆとり時間の確保につながる事が示唆された。今回は、就寝時刻を早める必要性やそのための工夫、知恵を紹介したが、起床時刻や朝食開始時刻を早めることや外あそび時間を増やす等、各家庭でわが子の健全育成のためにできることから取り組んでほしい。

規則正しい生活をおくることは、幼児期の子どもたちにはもちろんのこと、子育て中の保護者にとっても必要であることがうかがえた。日中の活動を楽しみ満喫するためにも、親子で規則正しい生活に取り組んでいただきたい。

表3 規則正しい生活に関する介入前後の生活時間(乳幼児)

項目	調査時期		介入後(N=15)	
	介入前(N=15)	介入後(N=15)	介入前(N=15)	介入後(N=15)
起床時刻	7時06分	20分	6時53分	25分
朝食時刻	7時37分	28分	7時25分	31分
登園時刻	8時29分	34分	8時25分	28分
帰宅時刻	16時56分	94分	16時59分	92分
夕食時刻	18時19分	42分	18時20分	37分
入浴時刻	18時30分	85分	18時27分	69分
テレビ視聴時間	1時間39分	88分	1時間47分	149分
テレビ消去時刻	19時27分	196分	19時27分	74分
寝室への移動時刻	20時46分	53分	20時23分	45分
親の設定した就寝時刻	20時53分	56分	20時43分	47分
就寝時刻	21時21分	55分	20時52分	45分
睡眠時間	9時間41分	56分	10時間01分	48分

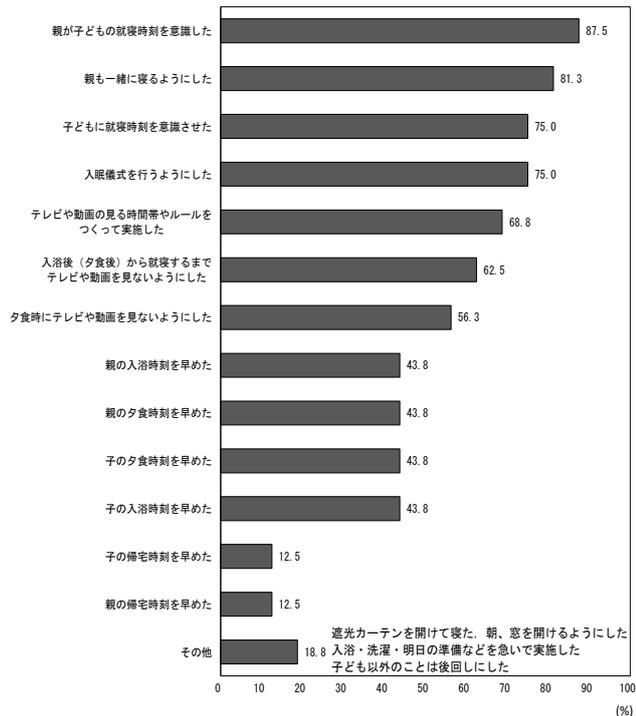


表4 介入後の保護者の変化の様子

あった	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夕食後の間食をとらなくなった</li> <li>・親も早寝になり、朝も早く起きるようになった</li> <li>・少し早く登園できるようになり、通勤にややゆとりができた</li> <li>・食事時間を早めるため、調理時間を早める努力をした</li> <li>・疲れにくくなった</li> <li>・今まで子どもの就寝が遅いのを子どもが元気だからとか、寝ないからとか、子どものせいにして、自分のことをやっていた気がします。でも、取り組んでみたら、夜は眠いと言うし早寝早起きできるということがわかった。結局、親次第だと思った。</li> <li>・基本的に母親が一人で急ぐしか方法がなかったので、母親の体調が悪い時、疲れているときはできないなと感じた</li> <li>・夕飯の後片付け、保育園での汚れ物の洗濯、保育園の翌日の準備、寝かしつけを、父親が協力的に毎日やってくれる環境なら、早く寝かすこともできると思う</li> <li>・早く寝かせること(起床時間やお昼寝等)、父親があまり重要に思っていないので、難しかった。</li> <li>・時計を意識して時間に追われてイライラした</li> </ul>
少しあった	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少し楽になった</li> <li>・朝、起きるのが少し楽になった</li> <li>・今までは息子の準備ができ次第、寝るようにしていたが、今週は時間を意識することができた</li> <li>・スマホを子どもの前ではあまり触らないようにした</li> <li>・子どもに前もって、時計がこれまでなどと具体的にいつまでなのか約束しておく、「約束したでしょ」となり、何となくスムーズに移行してくれる気がしました</li> </ul>

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 泉 秀生・前橋 明	4. 巻 78
2. 論文標題 保育園に通園する乳幼児のモバイル機器（スマートフォン・タブレット・パソコン）の利用状況と生活習慣との関係	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 小児保健研究	6. 最初と最後の頁 655-661
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 和田 愛・泉 秀生・前橋 明	4. 巻 29
2. 論文標題 習い事や課外活動が児童の生活リズムに及ぼす影響と課題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 子どもの健康福祉研究	6. 最初と最後の頁 23-35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 2. 西本 玲・泉 秀生・前橋 明	4. 巻 29
2. 論文標題 幼児期の睡眠習慣と眠りにつける条件	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 子どもの健康福祉研究	6. 最初と最後の頁 36-46
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 泉 秀生・前橋 明
2. 発表標題 保育園に通う乳幼児のモバイル機器使用状況の実態と生活習慣との関係
3. 学会等名 日本保育保健学会 第25回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 泉 秀生・前橋 明
2. 発表標題 幼児の出生順・きょうだい構成別にみた生活習慣の実態と健康管理上の課題 - 東京都足立区内の保育園13園の場合 -
3. 学会等名 日本子ども家庭福祉学会 第20回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 泉 秀生・前橋 明
2. 発表標題 東京都足立区の幼稚園幼児における習い事の実施状況と生活習慣
3. 学会等名 日本幼児体育学会 第15回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 泉 秀生・前橋 明
2. 発表標題 幼稚園幼児の家庭でのモバイル使用頻度（平日）と生活時間との関連性
3. 学会等名 日本レジャー・レクリエーション学会 第49回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 泉 秀生・前橋 明
2. 発表標題 保育園幼児の母親の勤務先における子育て支援制度の利用状況と生活時間
3. 学会等名 日本乳幼児教育学会 第29回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 泉 秀生・前橋 明
2. 発表標題 保育園乳幼児とその保護者の生活習慣の実態と健康管理上の課題 - 東京都足立区内の保育園13園の場合 -
3. 学会等名 日本子ども家庭福祉学会 第19回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 泉 秀生・前橋 明
2. 発表標題 保育園幼児とその保護者の生活習慣の実態と健康管理上の課題( ) - 夕食開始時刻と生活時間との関連性 -
3. 学会等名 日本食育学会 第13回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 泉 秀生・前橋 明
2. 発表標題 保育園幼児とその保護者の生活習慣の実態と健康管理上の課題( ) - 降園後の外あそびの有無と生活時間との関連性 -
3. 学会等名 日本幼児体育学会 第14回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 泉 秀生・前橋 明
2. 発表標題 保育園幼児の生活時間と保護者の設定する就寝時刻との関連性
3. 学会等名 日本保育保健学会 第24回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 泉 秀生・前橋 明
2. 発表標題 保育園幼児の平日の帰宅後におけるモバイル使用頻度と生活時間との関連性
3. 学会等名 日本レジャー・レクリエーション学会 第48回大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 前橋 明・泉 秀生	4. 発行年 2018年
2. 出版社 建帛社	5. 総ページ数 216
3. 書名 コンパス 保育内容 健康	

1. 著者名 前橋 明・泉 秀生	4. 発行年 2018年
2. 出版社 大学教育出版	5. 総ページ数 183
3. 書名 乳幼児の健康(第3版)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	前橋 明  (Maehashi Akira)  (80199637)	早稲田大学・人間科学学術院・教授   (32689)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------